

次代に責任!
~愛されるまち神戸を「西区」から~

神戸市会議員

西区

いつも地域に

かじ幸夫
ゆき お

市会報告

Vol.9
2024



事務所:神戸市西区王塚台7丁目105-2
TEL&FAX 078(924)0151
E-mail kajiyukio2019@gmail.com

編集・発行/こうべ未来市会議員団 〒650-8570神戸市中央区加納町6-5-1 TEL 078 (322) 5844 FAX 078(322)6161

会派
紹介

こうべ未来市会議員団

立憲民主党、国民民主党所属の議員7名で会派を構成しています。それぞれの得意分野を活かしつつ、力を合わせて議会活動に取り組んでいます。

かじ幸夫は、今年度、会派の**政務調査会長**として、市民・団体の皆さまからいただく要望の調整や会派の政策立案など、精力的に取り組んでいます。

令和6年度神戸市当初予算に対する 会派要望

《要約》



市長への会派予算要望にて

かじ幸夫からの要望内容は裏面

神戸市は、人口減少と高齢化のなか、新しい社会モデルとなる神戸のまちを構築する必要があります。神戸の未来のために、そして市民のより豊かな暮らしを実現するために、「**未来への人づくり**」「**未来へのまちづくり**」の視点で、市の財源を活かした積極的な投資を求めます。

人づくりとして、未来の宝物である子どもたちが主役のまちをつくること。学校教育に加え、居場所づくりなど生活全般を支える仕組みの拡充をすること。また、障がいや高齢によるハンディキャップがあっても、誰もが自分らしく生きていけるよう重層的な支援を構築することなど、人にやさしい施策の実現を求めます。

まちづくりとして、公共交通をはじめとした社会インフラの整備、水素を活用した脱炭素社会に向けた施策の実現。ドローンなど次世代技術を活用した産業の構築等、活力あふれる神戸を創造する施策の実現を求めます。

私たち議員団は、30年後50年後を見据えた神戸のまちづくりのために、『**未来への投資**』が積極的に行われる**予算編成となるよう要望**します。

【次号予告】

2月15日、令和6年第1回定例会が招集され、令和6年度神戸市予算に対する議案審議がスタートしています。審議の概要については、次号 (Vol. 10) にてご報告させていただきます。



水素エネルギーの利用促進

質問 かし幸夫 港湾局では、港湾エリアへの水素供給拠点の誘致や水素を取り入れた脱炭素化の取り組みなど先進的な支援を進められています。港湾局との連携状況を伺います。

答弁 環境局長 神戸港カーボンニュートラルポート協議会へのオブザーバー参画を通じて、神戸港や神戸空港を対象とした水素の利活用に際し、緊密に連携しています。再生可能エネルギーの利活用も含めて本市の脱炭素の取組推進に向けてしっかりと連携をしていきたいと考えております。

質問 かし幸夫 神戸空港で計画されている新ターミナル建設を踏まえ、このエリアにおける水素発電の導入を検討できないか。

答弁 環境局長 神戸空港で整備を進めている新ターミナルでは、カーボンニュートラルの実現に向けた取り組みが検討されています。将来的には水素エネルギーの活用や次世代太陽光パネルの導入など、様々な観点から検討を進めたいと考えています。



質問 かし幸夫 兵庫県や姫路市が水素の利活用について取り組みを進められています。現状、近隣都市との連携について伺います。

答弁 環境局長 兵庫県水素社会実装をめざす自治体連絡協議会を通じ、県内自治体を巻き込みながら水素に関する連携を図っています。播磨地域の大きな水素需要ポテンシャルを生かし、今後も連携強化を深めていきたいと考えています。

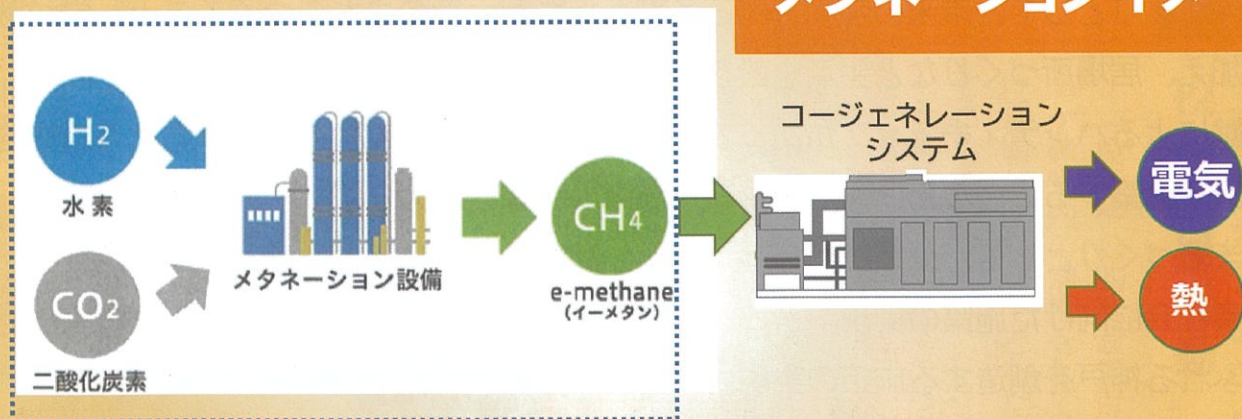
質問 かし幸夫 F C Vについて、環境局としてパッカー車など公用車への導入について考えを伺います。

答弁 環境局長 本市における、公用車の導入基準として環境負荷の小さい車の導入を推進しているところです。現在、導入基準の改正を検討しており、F C Vの導入を今まで以上に推進するという方向で水素需要の創出を図っていきたく考えています。パッカー車については、一部自治体において試験運用が行われており、一般販売にはまだ至っていない状況です。今後、他都市の事例等を参考にして検討を進めていきたいと考えています。

か し 要 望

水素スマートシティ神戸構想の推進に向け、水素を中心としたまちづくりを進めていただくことを強く要望しておきます。

メタネーションイメージ



次世代クリーンエネルギー活用実証事業として、神戸空港島にてメタネーションの取り組みが始まります。メタネーションとは、水素(H₂)と二酸化炭素(CO₂)を反応させ、天然ガスの主な成分であるメタン(CH₄)を合成するものであり、このような方法でつくられた合成メタンは、ガスの脱炭素化に貢献する次世代のエネルギーとされています。



1. 地域公共交通について

質問 かし幸夫 現在、市内各所において地域コミュニティ交通の試験運行が行われ、本格運行に至った路線も出てきました。市民の要望を受け、必要な移動を守るものとして取り組まれていることを評価しています。一方、個別の運行事業では、収支の課題や運行体制確立の課題など、先行きに不安を感じているところです。将来にわたって維持・存続、そしてより充実させていくために、これら課題にどのように取り組まれるのか伺います。

答弁 副市長 神戸市地域公共交通計画を策定し、地域の実情に応じた多様な地域コミュニティ交通を導入することで、地域の生活の足を確保しているところです。導入にあたって、地域特性や需要調査の結果を踏まえて運行を支援する仕組みとなっています。ただし、導入後、社会情勢の変化などにより、著しく利用者数が不足するといった場合、利用実態に見合った運行内容の見直しを行うことで運行継続を図ってきたところです。地域コミュニティ交通を将来にわたって維持・存続させていくため、引き続き適切な支援制度の在り方を今後とも検討していきたいと考えています。

質問 かし幸夫 路線バス事業については、利用者数の減や運転士が確保できないという理由で、路線の減便、廃止されることが全国的な課題となっています。一部は自治体の財政支援で維持・存続がしている事例もありますが、大型バスを使用し、利用者の多少にかかわらず走らせ続ける。この運用を見直していく時期に来ていると感じています。

これまで、地域コミュニティ交通は、主に交通空白地を埋める市民の移動確保の観点で運行してきましたが、これからは既存の路線バス事業に対する代替交通になり得ると考えています。路線バスからコミュニティバスやデマンド交通へモード変更していく、そういった検討を始めていくべきだと考えていますが見解をお伺いします。

答弁 市長 かし議員と全く同じ問題意識を持っており、それぞれの路線の状況をしっかりと把握し、交通局や民間事業者の方とも意見交換を行い、神戸市がコーディネーター役としてモード転換に向けた取り組みを行っていきたいと思います。

質問 かし幸夫 公共交通の存在意義の観点で、クロスセクター効果について伺います。地域公共交通は単なる移動手段ではなく、地域内、地域間の交流人口を増やす基盤的なサービスであり、例えば公共交通の利便性を高めれば、高齢者の外出機会を支えることができ、健康増進や就労機会に繋がる。そのことで医療費、社会保障費が縮減され、社会全体として費用負担が下がるとされています。この「クロスセクター効果」を研究・検討し、公共交通の存続に対する財政支援などの数値的根拠とするべきと考えますがいかがでしょうか。

答弁 副市長 他都市の事例や国の動向などを注視しつつ、クロスセクター効果の考え方である地域公共交通の多面的効果を評価するという考え方について、本市としても取り入れていきたいと考えており、地域の実情に応じた持続可能な公共交通ネットワークの形成に努力してまいります。

かし要望 地域コミュニティ交通の充実に対して、都市局担当職員を中心に尽力いただいています。これからも、より拡充していくために、適切な人員配置を要望しておきます。



2. 地域福祉センターについて

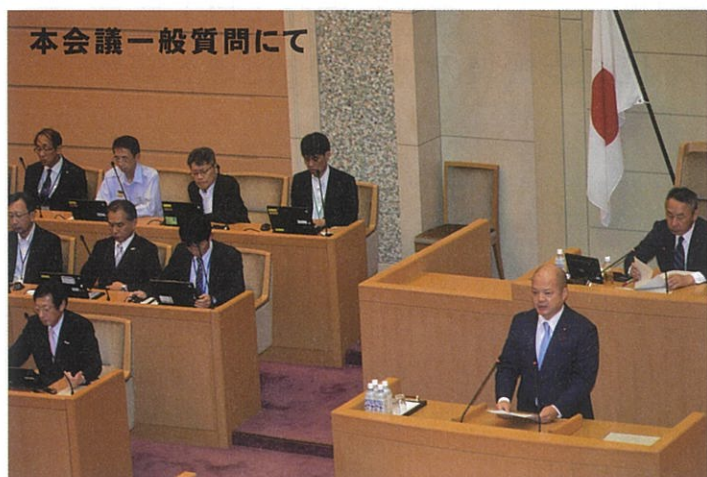
質問 かし幸夫 地域福祉センターに関する検討委員会から出された最終報告書によると、将来的に地域福祉センターを地域活動の促進、地域社会の課題解決に寄与する施設へと発展させることとされています。センターを拠点に市と市民が連携して、活力ある地域社会が醸成されることに期待しています。一方で、地域福祉センターの運営や利活用については、地域ごとに特色があり市民ニーズや取り組みもさまざまです。また、高齢化や担い手不足の現状では、地域福祉センターの管理運営を続けていくことが困難との声も見受けられます。今後のセンターのあり方について見解をお伺いします。

質問 かし幸夫 玉津地域福祉センターについては、玉津支所への移転が決まっており、センター跡地について、地域住民の意見も十分踏まえた上で、市として長期的、総合的な視点で検討いただきたいと思えます。加えて、地域住民の生活基盤の充実に資するような利活用とされたいと思えますが見解をお伺いします。

答弁 副市長 移転後の跡地の活用については、まだ具体的な検討というには至っていませんが、指摘いただいた点も踏まえ、地域のニーズ等も考慮し、全市的な観点で有効活用についての議論を進めていきたいと考えています。

例えば、カルチャーセンター機能など、玉津地域福祉センター建物を活かし、民間活力による新たな区民の集いの場として活用できるのではないかなと思えます。建て壊して売却ではなくて、しっかり市の財産として利活用いただきたいと思えます。

か
じ
要
望



3. 市立学校園における 清掃業務について

質問 かし幸夫 現在、市立学校園における校内の清掃業務については、児童生徒が対応しています。教育の観点があることは理解しますが、学校授業日の全てにおいて児童生徒に清掃させ続けることの意義について、改めて検討するべきと考えています。このことから市立学校園における清掃業務について、業務委託の導入を検討するべきと思えますが見解をお伺いします。

答弁 教育長 小・中・高校において、児童・生徒が日常的に使用する教室、廊下などの清掃を行うということが一般的であり、子供たちの協調性や社会性を育む上で一定の教育的意義があるものと考えています。一方でこれまで当然のものとして行ってきた活動でも、本来の目的に沿っているか、必要以上に手間や負担をかけていないかといった観点から見詰め直しを進めているところです。現在、時程編成の見詰め直しの中で、清掃についても箇所や使用頻度によって回数を柔軟に設定することとしており、毎日実施から週3回にするなどの学校が増えてきています。日常的な清掃について、業務委託する場合の費用面の課題もありますが、学校の業務と活動の見詰め直しを行っていく中で、清掃活動をどのように位置づけて行うのが適切なのか、学校現場の意見も聞きながら、よく考えていきたいと思えます。

質問 かし幸夫 市立学校園のうち中学校に着目すると、今後、給食の全員喫食に向けた取り組みが進みます。これにより盛りつけなど配膳が加わることで、今まで以上に喫食時間がかかると聞いています。現在、必要な喫食時間を確保するために、授業時間や休憩時間、部活動の時間の時程について見直すことを検討されていますが、生徒の学校生活に必要な時間を捻出するため、まずは中学校にて清掃業務の業務委託について先行実施ができないかと思えますがいかがでしょうか。

答弁 教育長 現在、中学校の給食時間は概ね20分程度となっていますが、今後、全員喫食へ移行すれば、これまで以上に時間を確保する必要があると認識しています。十分な給食時間の確保に向けて検討するよう各校に示しているところですが、休憩時間あるいは清掃、部活動の時間も含めた時程編成全体を改めて見詰め直すことが必須であると考えています。清掃活動をどう位置づけて、どう行うのがよいのかよく考えていくべき課題と認識しています。

か
じ
要
望

市が管理する公共施設の清掃については業務委託で対応しており、市立学校園についても前向きに検討いただきたいと要望しておきます。





要望① すべての市民が安心して暮らせるやさしいまち神戸

高齢化が進むなか、介護世帯への支援を充実するとともに、介護する側の負担軽減を進め、人材の確保を図られたい。障がい福祉サービスにおいては、支援メニューのコーディネート機能を拡充されたい。多様性を認め合う市民意識の醸成に向け、「神戸市ライフパートナー制度」を活用し市民への啓発を強化と、民間企業も含めた施策の充実に取り組みられたい。

要望② 未来を担う子どもたちを誰ひとり取り残さないまち神戸

子どもを中心に据えた施策の推進や、子どもの声を直接聴く仕組みづくりに努められたい。加えて、教育の現場においては、少人数・複数指導や教科担任制、



チーム担任制に市独自の人材を配置するなど一層の教育の充実を図られたい。学童保育について、施設整備と学習や保育の質の向上に努めるとともに、支援員のさらなる処遇改善と人材確保に努められたい。

要望③ 住み続けたくなる魅力あるまち神戸

市民ニーズに応じた交通網の整備を図るとともに、都心や里山への移住定住促進や空き家・空き地対策など、神戸に住みたい、住み続けたいと思われるまちづくりに引き続き尽力されたい。また、「若者に選ばれるまち」となるために、地元産業の活性化、新たな産業の振興や企業誘致を積極的に行い、働く場所・住む場所として神戸が選ばれるよう取り組まれたい。

要望③ 豊かな経済、選ばれる観光など活力あふれるまち神戸

市内のにぎわい創造や魅力発信につながる支援を継続し、市内事業者を応援するとともに、市場・商店街に対しては、それぞれの特性に合わせて様々な施策に取り組みられたい。また、滞在型観光需要を喚起するため、神戸夜市の常設、花火・イルミネーションなど、夜型観光コンテンツの充実を努められたい。



令和6年度予算に向けた 久元市長に対する

予算要望

2023年（令和5年）12月25日、市役所にて、令和6年度神戸市予算策定に向け、会派として久元市長に対し予算要望そして意見交換を行いました。重点項目など申し入れるとともに、各議員からは個別に意見・要望を伝え、それぞれ市長から考え方が示されました。かじ幸夫からは、敬老・福祉乗車証の市負担金の課題、そして認定こども園の今後のあり方について要望しました。

市民目線に立ち提出した各要望項目について、しっかり予算へ反映されるよう引き続き取り組んでまいります。



会派予算要望にて

かじ視点



能登半島地震に心を寄せる

2024年（令和6年）1月1日、能登半島地震が発生しました。地震規模は阪神淡路大震災を上回っており、現地では多くの方が被災されています。亡くなられた方に心からお悔やみ申し上げますとともに、現在も厳しい状況下で生活されている方々にお見舞い申し上げます。

神戸市は、発災後ただちに対策本部を設置し、国や被災自治体との協議のうえ、関係部局から多くの職員が輪島市、珠洲市へ入り復旧・復興支援に努めています。

この災害を受けて、個人としてボランティア支援や何かできることはないか情報収集に努めているところですが、一方でいま私たちにできることとして、**来たる南海トラフ地震に対して、しっかり備えられているかというのを再度確認すること**が大切だと思っています。災害から逃げることはできませんが、**ひとり一人が備えることで受ける被害を減らすことはできます**。ご自身やご家族の備えは大丈夫か、そして地域や職場の備えは大丈夫か。いまこそチェックし防災意識を高めておいていただきたいと思えます。

能登半島で被災された方々に心を寄せ続けながら、神戸市に対して、神戸における災害に備える対策について引き続き求めていきます。

子どもたちの学校生活と 校内清掃活動

「役所や公的施設では、外部の事業者が建物内の清掃をしているのに、学校現場だけなぜ子どもたちが掃除をしているのか？」

すべてはこの言葉から始まりました。たしかに教育の観点で、子どもたちが自身が校内の清掃を担う意義について理解していますが、すべての授業日に清掃していることに疑問を持ち、本会議にて質問しました。

現在、子どもたちの学校生活では、**授業時間の確保や教職員の働き方改革の観点で時程の確保に課題があり、課題解決の一助として清掃業務委託を提案**しました。すべての学校園に取り入れると大きな財政支出が必要となりますが、今後中学校給食の全員喫食が始まることを受けて、喫食時間の確保が課題となっており、その時間確保のために、校内清掃のうち廊下やトイレ、特別教室など、先行的に外部委託を導入していくべきではないかと考えています。引き続き、子どもたちの声や学校の状況を見ながら申し入れていきます。

神戸市会議員
(垂水区)

川内きよなお

市会報告

ご相談はお気軽に

川内きよなお事務所
神戸市垂水区大町1-2-10
TEL : 080-6175-4877
E-mail : bucfq906@hi-net.zaq.ne.jp

編集・発行 こうべ未来市会議員団 〒650-8570 神戸市中央区加納町6-5-1 TEL : 078-322-5844 FAX : 078-322-6161

令和6年第1回定例会市会（2月議会）開会中（2/15～3/26）

元旦に発生した能登半島地震で甚大な被害を受けられた方々に心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興をご祈念申し上げます。神戸市も2025年1月には阪神淡路大震災から30年の節目を迎えます。壊滅的になった神戸の街を市民が心をつなげて復興を成し遂げました。この経験とノウハウを被災地に発信しながら、復興に向けて貢献しなければならないと考えています。

さて、神戸市会では、令和6年度の予算（案）を審議する2月議会が開会されています。長引く物価高騰や気候変動による自然災害の増加、全国的な少子高齢化に伴う人口の自然減の加速など、問題課題は山積していますが、神戸をさらに高みに押し上げていくために、日頃皆様からいただいているご意見ご要望を本会議や委員会においてしっかり意見反映して参ります。

久元市長に予算要望



昨年の12月25日、**こうべ未来市会議員団**から久元市長に令和6年度神戸市当初予算に対する要望を行いました。人口減少と高齢化が進む中、新しい社会モデルとなる神戸のまちを構築する必要があり、今こそ新たな投資をするべき時期であると考えます。神戸の未来のために、そして市民のより豊かな暮らしを実現するために、「未来への人づくり」「未来へのまちづくり」の視点で、市の財源を活かした積極的な投資を求めるとともに、未来の宝物である子どもたちが主役のまちをつくること、また、障がいや高齢によるハンディキャップがあっても、誰もが自分らしく生きていけるような重層的な支援を構築することなど、人にやさしい施策の実現を求めました。

令和6年度予算の概要

■予算の規模 (単位：百万円, %)

会計別	令和6年度	令和5年度	増△減	
			金額	伸率
一般会計	905,694	879,398	26,296	3.0
特別会計	671,100	680,250	△9,150	△1.3
企業会計	350,195	328,418	21,777	6.6
合計	1,926,989	1,888,066	38,923	2.1

- ①一般会計
 - SDGsの視点に基づき「神戸2025ビジョン」に掲げる施策を取り組むことで、暮らしの質と都市の価値を高めるとともに、果敢な成長戦略により、都市の成長を促す好循環を創出していくことで、未来を見据えた持続可能な大都市経営を実現していくための予算を編成した。
- ②特別会計
 - 超高齢社会の進展に伴い後期高齢者医療事業費が増加した一方で、市営住宅マネジメント計画の事業進捗に伴い市営住宅事業費が減少した。
- ③企業会計
 - 企業債償還の減等により下水道事業会計が減少した一方で、新産業団地の整備等により新都市整備事業会計が、空港整備事業費への貸付金の増により港湾事業会計が、それぞれ増加した。

予算(案)の一部を紹介します

教育委員会

○不登校児童生徒への支援【5億4,600万円】
 全小中学校において、教室以外の居場所である「校内サポートルーム」を整備し、※支援員を配置（※週5日×4H）
 参考：令和4年3月時点（不登校児童生徒）… 小学校1,502人
 中学校2,602人

○教員の多忙化対策
 ・スクールサポートスタッフの全校配置
 教員が教材研究等の本来業務に注力できるよう、学校現場において業務補助を行う**スクールサポートスタッフ**をすべての小学校・中学校・義務教育学校・特別支援学校に拡充配置する。
 ※勤務時間は8時～11時
 令和5年度：160校→令和6年度：250校

- ・学校給食費の公会計化による事務の一元化・集約化
 （R6年度：小学校・特別支援学校等の給食費を公会計化）
 ※中学校は全員喫食制への移行時に順次公会計化（R6～8年度）
- ・小学校35人学級編成の段階的实施
 〈小学校学級編成基準〉

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
令和5年度	35人	35人	35人	35人	40人	40人
令和6年度	35人	35人	35人	35人	35人	40人
令和7年度	35人	35人	35人	35人	35人	35人



こども家庭局

○高校生等通学定期券補助の拡充【12.3億円】

→令和6年度(9月2学期～) ※通年実施の場合【20億円】

子育て世帯の家計負担減と本市の多様な教育環境を維持していくため、神戸市在住の高校生等が市内高校等に通う場合の通学定期代を令和6年9月より無料化する。

通学先	～令和6年8月	令和6年9月～
市内	現行通り	全額補助
市外	現行通り	

※現行：年額14万4千円を超える通学定期代の2分の1を補助



○こべっこウェルカム定期便【2億1千万円】

子どもが生まれた世帯を対象に、新たに、月に1回おむつやミルク等の育児用品を配達し、配達に合わせて声掛けや支援情報の提供等を含めた見守りを行う。

※令和6年秋以降に、計10回配達(1回目は1万円相当、2～10回目は3,000円相当)

※令和6年4月以降に生まれた子どもが対象



文化スポーツ局・建設局

○神戸市内の公園に「バスケットゴール」を50カ所追加設置等

【1億9,000万円】

神戸市が神戸ストークスの本拠地移転に合わせて、バスケットボールの振興を図るため、バスケットゴールがある公園を倍増します。

整備計画

現在バスケットゴールがある公園50カ所
整備目標(概ね3年)約50カ所
(合計100カ所に倍増)



○神戸2024世界パラ陸上競技選手権大会の開催【18億9,300万円】

・会場・競技運営、選手・大会関係者の受入れ、体験型授業・交流活動の推進の実施

・競技日程：R6.5.17(金)～25(土)

・競技会場：神戸総合運動公園ユニバー記念競技場



令和6年能登半島地震の被災支援

【1億500万円(うち5年度2月補正9,500万円)】

・被災地への職員派遣等の実施(避難所支援、給水、健康支援、公共施設復旧等)

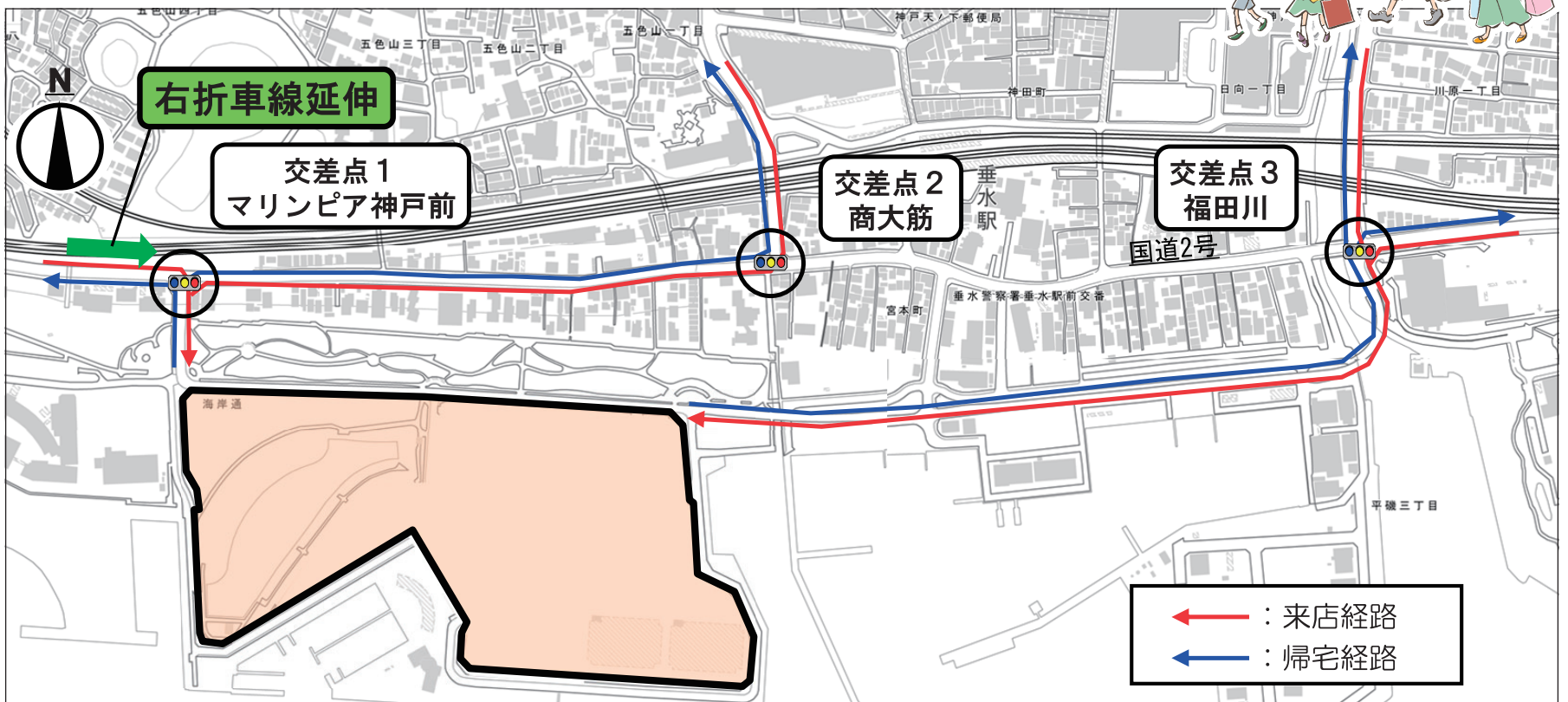
・被災者に向けた市営住宅の無償提供(50戸程度)



(仮称)三井アウトレットパークマリンピア神戸(今年秋頃・リニューアルオープン)



約2年前からリニューアルのため閉鎖していた(仮称)三井アウトレットパークマリンピア神戸が今年の秋頃にリニューアルオープンする予定です。多くの来場者が見込まれますが、特に車の渋滞等の問題が懸念されます。来店・帰宅経路を工夫しながらできるだけ渋滞が発生しないように努めているところです。





▶ 令和6年2月 予算議会代表質疑 ▶ 令和6年2月 予算特別委員会

令和6年度各会計予算について

令和6年度各会計予算及び関連議案合計53件を、要望12件を付して承認しました。

〇こうべ未来市議員団、他の議員による質疑テーマ（一部）

1. 行政手続のスマート化（よこはた議員）
2. 高校生等の通学定期券補助（伊藤議員）
3. 教職員の人材不足への対応（やの議員）
4. 障がい者向けグループホームの整備（かじ議員）
5. 交通事故軽減に向けたカラー横断歩道の導入（木戸議員）
6. ごみの減量化（木戸議員）
7. 地域団体の高齢化に伴う対応（川内議員）



〇「海軍操練所跡」発掘現場を視察しました！！

中央区新港町に広がる東西約250m、南北約200mの広さの当遺跡は、絵図などの資料により、元治元（1864）年に江戸幕府によって

設置された海軍操練所の跡地と推測されています。

神戸開港以前の遺構がはじめて発見されました。

また、神戸港160年の歴史の変遷を物語る遺構の発見、考古学の手法で神戸港発展の歴史的経過を検証した点での成果とされています。

保存と活用等、注視していきます。



★ 毎月末 市政報告会を開催しています。
電話・メール等でご予約いただき、ぜひご参加ください。

討議資料

いさやま大介事務所 〒657-0816 神戸市灘区国玉通2-2-8 まどかビル2階東

TEL : 070-1930-2368 FAX : 078-271-3707 mail: info@isayama-daisuke.jp

いさやま大介



プロフィール

教員の両親から生まれる。
神戸大学発達科学部を卒業。
中学から大学までは水泳部のキャプテン。（現在、神戸市水泳協会副会長）
灘区の松蔭中学と神戸海星中等学校で18年間教員を勤める（理科と化学）。
地元少年野球部の元コーチ、地域こども水泳教室の現コーチ。

2015年、19年、23年神戸市会選挙連続当選、現在3期目。
経済港湾委員会所属（2024年4月現在）
議会活動のかたわら、駅頭活動と週末の地域周りを現在も欠かさず継続中
教員経験を活かし教員の多忙化対策等、教育全般の環境改善に全力活動中。



発行元

こうべ未来市議員団

〒650-8570 神戸市中央区加納町6-5-1 1号館27階
TEL : 078-322-5844 FAX : 078-322-6161

Vol.35

多 死社会への対応（終活支援の導入など）は？

くらし

予算議会
質疑のポイント

- ☑ 神戸市の令和4年の死亡者数は18,369人で元年より2,000人以上増加。
- ☑ 葬祭を行うものがないため、代わりに本市が火葬を行った件数は、平成30年度の442件から令和4年度には595件と大きく増加している。
- ☑ 身寄りがない人が残した遺留金の取扱いを含め、多死社会へ対応はどうか。
- ☑ 無縁遺骨を減らす施策「エンディングプラン・サポート事業」の狙いは。

鶴越合葬墓に加えて、一定期間たてば合葬墓に移行する「期限付き墓地」を新たに整備をする。また、自然回帰志向にも応える形で山林を墓標とする「樹林地墓地」の整備で対応する。

身寄りのない方が亡くなり残した遺留金の取扱いについては、神戸市は既に条例もつくって対応しているが、国の制度が追いついていない。国への制度要望を含めて検討を深めていきたい。



頼れる身寄りのいない低所得の高齢者の方が、自身の葬儀や納骨について、生前時にあらかじめ契約をする、これを行政が手続を支援するのが「エンディングプラン・サポート事業」である。

この制度の実施により、家族の有無などにかかわらず、葬られる機会を提供することで、御自身の葬儀や納骨について市民の不安解消を図っていきたい。

文化・スポーツの可能性を信じて！！

文化・スポーツ・観光・福祉

○『神戸2024世界パラ陸上競技選手権大会が5月に開催！！』

予算議会
質疑のポイント

- ☑ 2021年9月に開催予定であったが、コロナ禍による二度の延期を経て、いよいよ、今年5月に開催を迎える。
- ☑ 円滑な大会運営や大会を通じた障がい・多様性への理解の促進、神戸の魅力の世界への発信に向け、準備は仕上がっているか。
- ☑ 171の種目におよそ1,300人の選手が参加する。アスリートが力を十分に発揮できる最高の舞台となるための取り組みは。



今年の夏に開催される「パリ・パラリンピック」の最終選考会を兼ねている。円滑な大会運営については、客室のタイプやバリアフリーの対応、宗教や食の多様性にも配慮した食事のメニューなどを準備している。各国選手団の輸送手段として車椅子利用者のアクセシビリティにも配慮し、大型リフトバス、ノンステップバス、福祉車両など、多様な車両を確保している。

大会を契機に、次世代を担う子供たちの障がいや多様性への理解を促進するために、100を超える学校の観戦会を実施を予定している。

マスコミ関係者に対しては、神戸の食を味わいまちを巡るメディアツアーを開催し、メディアセンターでは、神戸観光のPRの動画を放映するなど、神戸の魅力を世界に紹介する。また、競技を盛り上げるためのDJによる実況アナウンスなど、高揚感を得られる演出も考えていく。

○震災から30年を迎える神戸ならではの文化芸術面での発信を！！

令和6年度予算では、震災30年関連事業がいくつも計上されています。震災後数週間が経った頃から、ボランティアによる避難所での慰問活動が自然発生的に始まり、自衛隊音楽隊の慰問演奏受け入れなどに文化振興財団が関与していくようになりました。不条理な災害を受けた後、衣食住を満たす最低限度の避難生活が続く中で不満・不安・絶望が募る中、音楽や身体表現、美術など、復旧・復興とは無縁とされていた文化芸術活動が、人々の心に癒しと未来への光明を示しました。

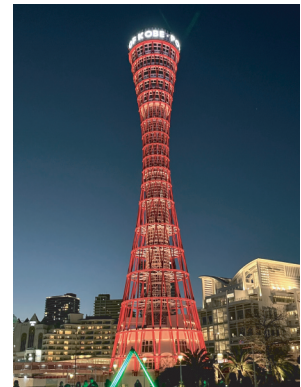
阪神淡路大震災から30年目を迎える節目の年にあたり、震災復興に文化芸術が果たした役割をどう評価し、どういう形で発信していくのか、質疑しました。

経済の活性化を目指して！！

経済・港湾

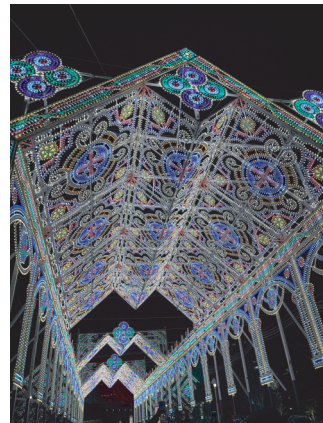
○『神戸ポートタワー』リニューアルオープン！！

本年4月のリニューアルオープンを大きな契機ととらえ、近接する中突堤周辺地区の再整備の進捗と今後の展望に関連した賑わいづくりの取り組みについて、質疑しました。また、新港第2突堤で開業する「ジーライオン・アリーナ・神戸」の建設に併せて、公共緑地や賑わい施設の整備が行われます。突発的に自然災害が発生したときの来場客の避難誘導も含め、防災対策をどのように講じる予定であるのか、質疑しました。



○『神戸ルミナリエ』に230万人！！

4年ぶりの本格開催であり、地域経済への波及効果を検証するために、売上高への貢献、人流増減の客観的・定量的な検証も必要ではないか。また、近隣の飲食店等に立ち寄ってもらう仕掛けとして、有料エリアの入場者などに配布するQRコード付きカードの効果について、質疑しました。今回の課題が活かされるよう、頑張っていきます。



○若手・女性が活躍する商店街！！

高齢化や担い手不足が進む商店街の活性化には、若手や女性が商店街で活躍できる施策を進めていく必要があると考えます。若手・女性向けに商店街等への出店支援制度についての実績と、制度の拡充や柔軟な見直しを検討するよう、質疑しました。

○可能性広がるスタートアップ施策！！

- ①グローバルを意識したスタートアップの支援
- ②地元の産官学金からなるコンソーシアムを活用した神戸ならではの成長・ロールモデルの創出
- ③市内の中小企業との連携を図っていくという答弁が、秋の「決算特別委員会」でありました。Microsoftのラボ（右写真）が神戸商工貿易センターに開設されるなの変化を踏まえ、スタートアップ施策の重点分野として取り組みを、質疑しました。



きど 神戸市会議員 木戸 さだかず 活動報告 2024.4



1974年生まれ

- 神戸大学卒業、京都工芸繊維大学大学院修了、淡路景観園芸学校修了
- 京都で植木職人として修行後、設計コンサル勤務。

国営明石海峡公園の基本設計や自治体の景観形成条例策定等に携わる。

- 兵庫県議会議員1期（2019～2023）
- 2023年4月より神戸市会議員（神戸市須磨区）

裏面

交通安全対策

エビデンスがない？

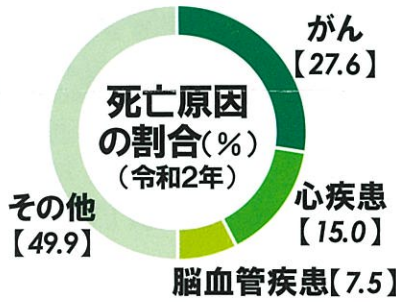
カラー横断歩道のこれから

病気という悲しみを防ぎ、健康という幸せを守る 予防医療の取組みを

死の半分が生活習慣に起因

日本の死亡原因の半分を占める、がん・心疾患・脳血管疾患は、昔は遺伝とも言われましたが、今は、生活習慣に深く係わる病気（生活習慣病）であることが分かっています。

生活習慣病は、死亡原因にもなりますが、生活の質（QOL）の低下にも繋がります。



9割が生活改善必要！

世の中は健康ブームで、健康に関する商品がよく売っていますが、健康ブームは私たちを本当に健康にしているのでしょうか。気になるデータがあります。

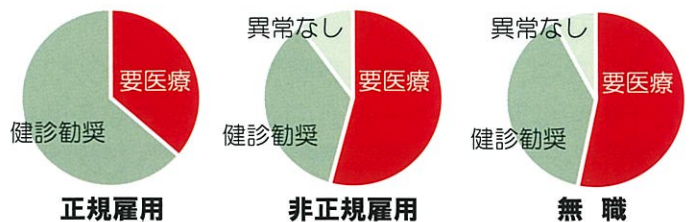
昨年、長田区の商店街で気軽に健康チェックができる「気軽にできる健康チェック」事業が実施されました。

これは昨年の私の議会での一般質問「女性への健康支援の必要性」を踏まえて、女性をターゲットにモデル実施されました。

受け身型ではなく自ら出向いていくアウトリーチ型の簡易な健診事業として実施されましたが、生活習慣病リスクを抱える人が予想以上に多い結果に、担当局も驚いていました。

気軽にできる健康チェック事業【2023.9～11】

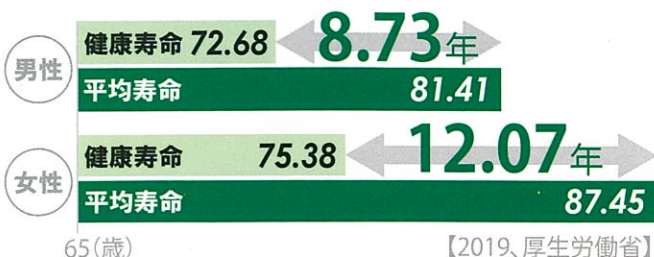
長田区のスーパー、商店街などで実施し、184名の女性が受診



健康でいれる期間は？

私たちが心身ともに健康でいれる期間（健康寿命）について国が調査をしています。

結果は、健康寿命と平均寿命の差は男女ともに大きく、この差をいかに縮めるかが課題となっています。これに深くかかわるのが予防医療という取組みです。



★9割の方が要医療・生活改善が必要!!

★非正規・無職の方は健康に課題が多い!!

質問 アウトリーチ型の健診事業を

健康維持への取組みは、まずは自身の健康状態を知るのが肝心で、データで自身の健康を知ることができる機会のひとつが健康診断ですが、年齢や性別、病気の状態に応じて知るべき情報・とるべき行動は様々です。

技術革新により、簡易な血液検査ですぐに健康状態がわかる時代になりました。

知るべき情報を伝えるためにも、これからはターゲットを定めてこちらから出向く健診事業を展開してはどうでしょうか？

例えば、データを見ながらカウンセリングを受けることができる「おやこ保健室」(山口県、2023)

ベビー・キッズに定期的なヘモグロビンチェックを勧めて実施されました。今は、採血不要・痛みなしで検査が可能です！



回答 財源が必要なため、まずはモデル事業で得られたデータを活用していく

昨年、長田区で同趣旨のモデル事業を実施し効果を感じているが、全市に拡げていくには大きな財源が必要となる。まずは、モデル事業で得たデータをガイドブック化し予防医療の啓発に努めていく。

健康経営という考え方のもと、社員の健康増進に積極的に取り組む企業もあるので、企業連携の視点も取り入れるよう要望しました。

こんな取組みも始まっています！

新技術 ウェアラブルデバイス

(手首や指、足など、体の一部に装着して使用する電子機器)

まだまだ途上ですが、神戸市では、民間と連携しデータやセンサー等の先端技術を活用した予防医療の取組みも始まっています。



カラー横断歩道のこれから

歩行者の死亡事故の7割が道路横断中

2017~21年の5年間で、車にはねられて歩行者が死亡した事故は全国で5,052件起き、うち7割は道路の横断中に発生。その3割が横断歩道上で起きていました。

カラー化の効果は6%!?

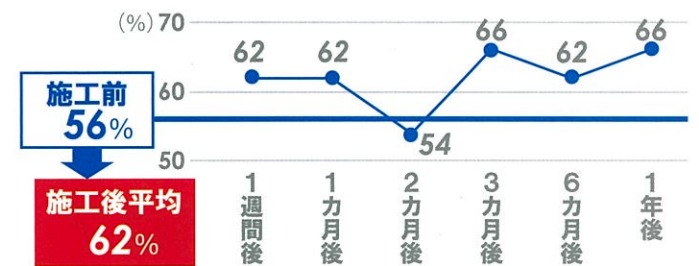
こういった事態を受け、各自治体で横断歩道の安全対策が講じられていますが、その内容は様々なのが実情で、これといったエビデンス(証拠)はまだないのが実情です。

そんな中、神戸市は兵庫県警と連携し2022年に「横断歩道のカラー化」の効果実証実験を開始

し、須磨寺町の横断歩道をはじめ市内7箇所では1年間効果の検証が行われてきました。



【須磨区須磨寺町3】



カラー化実験前後の一旦停止率【須磨寺町交差点】

須磨寺町では、劇的な改善とまではいきませんが、一旦停止率の6%向上が見られました。

今後、他の箇所での検証結果も出てきますのでこれからこういった対策が良いかみなさんと一緒に議論していけたらと思っています。

ご意見、ご相談、お気軽にご連絡ください！

神戸市議員 木戸さだかず

お名前

お電話番号

〒654-0142
 須磨区友が丘1丁目109
 電話：070(7645)4168
 メール：s-kido@jcom.zaq.ne.jp

ご意見